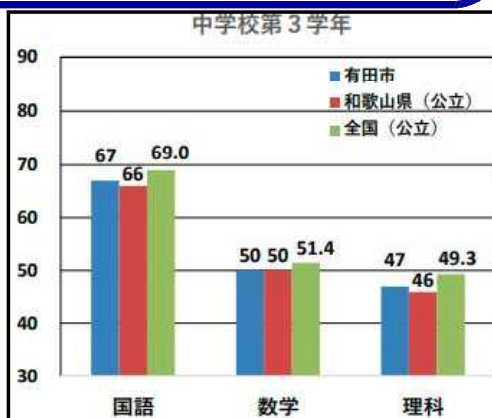




全国学力・学習状況調査の結果について①

中校3年生全員を対象に実施した、令和4年度全国学力・学習状況調査について、本校の結果及びこれからの取組について保護者・地域の皆様に報告いたします。

本年度の内容は「国語・数学・理科」の3教科と「質問紙(アンケート)」です。右の表は、それぞれの教科の平均正答率で、左から「有田市」「和歌山県」「全国」の数値です。本校の結果は、3教科とも、ほぼ全国平均と同程度の結果でした。



ところで、全国学力調査の問題は公開されているのです

が、ご覧になったことがありますか？ インターネットで検索すると見つかります。この問題は、普通のテストと少し傾向が違います。たとえば、国語でグラフや表を読み取る問題があったり、数学で『「～は……になる。」という形で書きなさい』というような問題があったりします。「読み書き計算」といった基礎・基本に加えて、活用する力が問われます。また、問題の文字数が多く、何を問われているのか、根気強く読み進める力が必要です。

これらの力をつけるためには、授業だけでなく、普段から5W1H【Who(だれが)、When(いつ) Where(どこで)、What(なにを)、Why(なぜ)、How(どのように)】が分かるように話しているかや、読書も大切になってきます。ご家庭でも少し意識して会話をしたり、一緒に本を読む時間を設けたりしていただければと思います。以下、教科別に報告します。

【国語】

本校の平均正答率は、全国平均正答率とほぼ同じです。問題は14問で、問題別の正答率では、
 全国平均より3%以上高い問題……6問
 同程度の問題……4問
 3%以上低い問題……4問でした。

学習事項別では「読むこと」「話すこと・聞くこと」は、全国平均を上回っていますが、「書くこと」は、全国平均よりやや低くなっています。解答の形式では記述式の正答率が高くなっているので、文章を書くこと自体はできるのですが、「自分の考えが相手に伝わるように」や「根拠を明確にして」書くことに課題があると考えられます。また、比喩や擬人法、慣用句等の理解や活用に不十分さが見られます。言語について学習したことを活かし、語句の理解や表現の工夫ができるような学習に意識して取り組んでいきます。

漢字の読みかきは正答率が高く、小テスト等で繰り返し行う学習の効果が見られました。

今回の調査の中で最も正答率が低かったのは「行書」についての問題で、正解者は20%程度でした。裏面に問題を掲載しますので、ご覧ください。

上にも書きましたが、日常の会話や読書の中で語彙を増やすことも大切です。学校でもご家庭でも自分の言葉で丁寧に話すことをこころがけ、朝読書の時間以外でも本や新聞を読む時間が増えると良いですね。

【最初に書いた文字】



《正解と誤答例は次号に掲載します。》

【最初に書いた文字】 について、青山さんは「行書の特徴を踏まえて書くことができています」と述べていますが、その具体的な内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 ①の部分は、筆順の変化に気を付けて書くことができています。
- 2 ②の部分は、楷書と同様に点画を直線的に書くことができています。
- 3 ③の部分は、点画を省略して書くことができています。
- 4 ④の部分は、点画を連続して書くことができています。